



# 木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2024年7月14日(日) 9:30~12:00 (雨→曇)

参加者 一般:3名

指導員:3名

## テーマ 草原の生き物

天気がよければ川原の植物に関心のある高校生のグループが参加したいと言っていましたが、あいにくの梅雨空で不参加。水滴がついた草で靴が濡れてしまう川原を避けて回りました。

最初にタワー近くでこの時期ならではのセイヨウツボグサの花を見ました。続いて堤防道路に出て、草が刈られた堤防で黄色い蔓を伸ばしたアメリカネナシカズラを観察しました。白い小さな花とともに、黄色の球状の虫こぶ(マダラケシツブソウムシが作るネナシカズラツルコブフシ)がついていました。近くに草刈りのせいがかちょっと変わった雰囲気のカナビキソウがありました。また、道路脇のアベリアの間からオカトラノオの花茎が伸びていて、ここに生えていたことに初めて気づきました。その後、クズ、カワラナデシコ、キキョウ、オミナエシといった秋の雰囲気が感じられる花にも出会いました。

この日、見たいと狙っていたのは、最近この辺りで増えていると言われているシタバニハゴロモです。中国や東南アジア原産の外来種で、日本では2009年に石川県で初めて確認され、北陸地方から最近では中部・近畿・中国地方に生息域を拡大しています。堤防のシンジュの木を探すと、成虫のほか、黒地に白い斑点の幼虫と赤地に白い斑点の幼虫が見つかりました。成虫はベッコウハゴロモなどよりかなり大きく、後翅の赤い模様が目立ちます。果樹の害虫として、農家に警戒されているそうです。同じ木にシンジュキノカワガの幼虫もいました。中国から飛来すると言われてきた蛾ですが、日本に定着した可能性もあるようです。



(シタバニハゴロモの成虫と幼虫)

天気のせいかチョウやトンボはあまり飛びませんでした。羽化したばかりのナツアカネの姿が見られました。林の中からは夏らしいクマゼミとニイニゼミの声が随所で聞かれました。ただ、例年ならもう出ているはずのアブラゼミは確認できませんでした。

前日の下見では巣立ちしたオオタカの若鳥の鳴き声が聞かれ、望遠レンズ付きのカメラを構えた野鳥ファンの姿もありましたが、今日は巣から離れたのかオオタカの気配は感じられませんでした。(報告:齋竹)

### <その他観察できたもの>

花:キカラスウリ、カワラサイコ、メマツヨイグサ、コマツヨイグサ、オオキンケイギク、フタナ、ヒメジョオン、ヒナギキョウ、ツリガネニンジン、イヌコモチナデシコ、メリケンムグラ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、ミソハギ、ハンゲショウ、ヤブカンゾウ、ダイコンソウ、アキカラマツ、ホソバオモダカ、ツユクサ、ミスヒキ、ギンミズヒキ、オニドコロ、ヤブラン 実:コブシ、モクゲンジ、サンシュユ

鳥:ツバメ、トビ、ホオジロ、コゲラ、カワセミ、ヒヨドリ、キジバト、シジュウカラ、ハクセキレイ、スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ウグイス(声)、メジロ(声) 虫:シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ、ウスバキトンボ、ヒメウラナミジャノメ、ツマグロヒョウモン、ツバメシジミ、ヤマトシジミ、ダイミョウセセリ、キマダラカメムシ、アオバハゴロモ、ショウリョウバッタ、ヒガシキリギリス(声)

その他の動物:ウシガエル



セイヨウツボグサ



カワラナデシコ



珍しいシンジュキノカワガの幼虫



羽化したてのナツアカネ